

第4学年国語科 学習指導案

平成27年11月6日(金)

4年2組(男子12名 女子12名 計24名)

授業者 吉井 惇也

- 1 **単元名** 伝えよう 暮らしの中の和と洋
教材名 暮らしの中の和と洋(東京書籍4年下)

2 単元の目標

- 生活の中の「和」と「洋」の違いに関心を持ち、目的に応じて要約したり引用したりして、「暮らしの中の和と洋ブック」を作ることができる。(関心・意欲・態度)
- 自分の考えを効果的に表現するために、文章の必要な部分を引用したり要約したりすることができる。(C 読むこと エ)
- 学校図書館などを利用し、知りたいことを調べるためにさまざまな本や資料を読むことができる。(C 読むこと カ)
- 段落相互の関係に注意して、指示語や接続語の役割を理解し、自分で文章を書く際に用いることができる。(言(1)イ(ク))

3 単元について

(1) 単元観

①本単元で取り上げる主な指導事項

本単元は、小学校学習指導要領国語の第3学年及び第4学年「C 読むこと」の指導事項「エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること」と、指導事項「カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと」を取り上げて指導する。

②単元を貫く言語活動とその特徴

「C 読むこと」の言語活動例「エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。」を具体化した、「伝えよう 暮らしの中の和と洋」という言語活動を位置付ける。

ここで取り上げる「暮らしの中の和と洋ブック」は、暮らしの中にある和のもの(もともと日本独自の文化のもの)と洋のもの(もともと外国独自の文化のもの)を比べて書き表すというものである。外国文化はファーストフードや洋室など近年、日本の生活にはかかせないものになっている。普段生活をしていても和のものなのか洋のものなのか児童には判断がつかないことが予想される。和のものと洋のものはどのような使い方をし、それぞれにどのような特徴があるのか比べることは児童にとって興味が引かれるものだと考える。つまり、和のものと洋のものが混在している世の中だからこそ本を活用して情報を得ることの必要性が強調されるだろう。そして、自分の知りたいことの情報の本から引用したり要約したりして解決をしていく姿が期待される。そこで、本の情報と自分の生活体験をもとに考えを述べるように「暮らしの中の和と洋ブック」という言語活動を設定した。このことが、「自分の考えを効果的に表現するために、文章の必要な部分を引用したり要約したりしている。」(C 書くこと エ)、「学校図書館などを利用し、知りたいことを調べるためにさまざまな本や資料を読んでいる。」(C 読むこと カ)の実現につながると考えられる。

(2) 児童観

児童は、3学年11月の「もうどう犬の訓練」では、「はたらく犬 ものしりカード」の活動を通して要約の仕方を中心に学習を行っている。しかし、仕上がったものしりカードを見てみると自分が知りたい情報以外の所を要約するなど、弱さが見られた。また、4学年6月の「ヤドカリとイソギンチャク」ではまとまりごとに構成をとらえる学習を行い、

話題提示、問いとその答え、まとめの順を意識し、「助け合い リーフレット」を作る言語活動を設定した。しかし、接続語や指示語を意識してまとまりを読むことができる児童が少ないという課題が見られた。

標準学力調査の結果を見ると読む領域では「たくさんある情報の中から必要な情報を選び、指定された条件を満たして答えること」に関して全国平均から-14.1ポイントになるなど弱さが見られた。そこで、和と洋について知りたい情報を関連図書の中から選び、引用した部分は「」をつけることや引用する部分は、もとの文章を書き抜くなどの条件を満たしながらブックにまとめる活動を展開する。

また、1学期にとったアンケートでは「本を読むことが好き」と肯定的に答えている児童が多い。そこで今回の学習活動に必要な本を自ら選書し、情報が足りない場合は学校図書館だけでなく、市立図書館などにも足が運べるように児童の意識を向けていきたいと考えている。

(3) 指導観

第一次では教師の作成した「くらしの中の和と洋ブック」を紹介することで本教材に対する意欲・関心を持たせる。そして、「伝えよう くらしの中の和と洋」という学習のめあてを持ち、児童が目的意識を高められるように和と洋の文化の違いや良さをALT（9月より四万十市に配属された2名のALTを含む）に伝えることを児童に提案する。学習活動で使用する並行図書は児童が疑問を解決できそうな本を請求番号などから選書させる。学校図書館の本だけでは情報が足りないことが予想されるので、その場合は市立図書館の本にも目を向けさせ、児童の読書の幅を広げるようにしたい。

第二次では自分の考えを効果的に表現する力をつけるために教材文を使って引用の仕方を理解させる。①引用する部分は、自分の考えと区別して、かぎ（「」）をつけて書く。②引用する部分は、もとの文章のまま書き出す。③文章全体ではなく、必要な部分だけを引用する。④引用した本の書名、筆者名（作者名）、出版社名、書かれたページなどを正しく書くといった条件を必ず満たさないといけないことを指導する。また、第三次の学習につなげるために段階的に並行読書をさせていく。並行読書をする際には、表紙や背表紙を手掛かりに必要な情報の本を選ばせる。次に本の中から必要なページの引用や要約をしたい部分に付箋をつけさせる。そして、引用メモをとらせ、いつでも奥付に書かれている情報や引用したい部分などを確認できるようにし、児童の思考がとぎれないように工夫していきたい。

第三次では、「くらしの中の和と洋ブック〇〇編」を完成させ、ALTに紹介をする。紹介する時には和と洋を対比させ、それぞれの違いや良さが伝わるように工夫をさせる。今まで学習したことを活かしてALTに和と洋のことを伝えることで、児童に達成感を味わわせたい。学習後も家庭学習で「和と洋の違い」をまとめさせ、単元でつけた力の活用を自己評価する場面を意図的に設定する。そして、調べ学習をする際にも本学習でつけた力を他教科に活かすなど関連を図りたい。

本時では、引用の仕方を確かめていく活動を行う。教師のモデルをもとに引用の仕方を全体で共有する中で「くらしの中の和と洋ブック」を今後自分たちが作っていく際に「できそうだ。」といった引用に対して抵抗感なく取り組めるようにしていきたい。前時まで学んだことが常に確認できるように教室に掲示をしておくように環境を整えておく。また、一人の児童の意見が全体に広がるように「分かりました。」という反応で終わるのではなく、「何が分かったの？」や「今の意見に対してどう思う？」というように他の児童にも指名をしていく。

児童が第三次に目を向け、目的意識を持って並行読書ができるように引用カードに引用したい部分とページ、本の題名、筆者（作者）名、出版社をメモさせるようにする。児童が必要な情報を選び、意欲的に読めるように手立てをうっていく。

(4) 研究テーマとの関連

主体的に児童が学ぶためには、教師から与えられたもので学習していくのではなく、児童自身が「やってみたい」と思うような学習活動を仕組んでいく必要がある。そこで導入では和と洋に関するゲーム的活動から興味を引き出ししていきたい。また、そこから生まれた児童の疑問を解決するために自ら並行図書を選書させることが必要であると考え。いつも教師から与えられた本で調べている学校図書館を学習情報センターとして活用しようという意識が児童から生まれにくいからである。さらに教室後方の黒板には児童が見つめてきた和と洋の言葉や写真を掲示し、いつでも確かめたり児童の思考の手掛かりにしたりしたい。掲示していくことで児童自ら進んで和と洋のものを自主的に見つけてくることに期待している。

児童自ら主体的に活動するためには単元全体を意識させ、児童の思考が途切れないようにすることが必要である。「なぜ今日の学習をしているのか」「今日の学習が何につながってくるのか」ということを意識させたり確認したりしていく。

そのために、①単元の流れを掲示②目的を持った並行読書③次時に関係ある家庭学習に取り組むことで常に「学習のつながり」を意識させていく。また、友達の意見を聴く際には自分の意見や友達同士の意見を比べさせながら聴くように声かけしながら学習を進めていく。挙手をしていなくても指名された時に自分の想いを語れるようにさせていく。自分の意見に対して友達が想いを返してくれることで「みんなに伝えたい」「発表して良かった」という想いを感じ取らせたい。

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	・生活の中の「和」と「洋」の違いに関心を持ち、目的に応じて要約したり引用したりして、「くらしの中の和と洋ブック」を作ろうとしている。
読む能力	・自分の考えを効果的に表現するために、文章の必要な部分を引用したり要約したりしている。(エ) ・学校図書館などを利用し、知りたいことを調べるためにさまざまな本や資料を読んでいる。(カ)
言語についての 知識・理解・技能	・段落相互の関係に注意して、指示語や接続語の役割を理解し、自分で文章を書く際に用いようとしている。イ(ク)

<言語活動のモデル「くらしの中の和と洋ブック」>

使いたい写真がある場合は
選ばせておき、貼る。

引用した部分には
「 」をつけ、もとの
文章のまま抜き出し
たりページ数を書い
たりする。友達の作っ
たページと合わせ、本
にしていく。

本の奥付から引
用した本の書
名、筆者名、出
版社名などを正
しく書く。

5 単元構想図

単元を貫く言語活動

くらしの中の和と洋について知りたいことの情報を引用したり要約したりして「くらしの中の和と洋ブック」にまとめ、ALTに紹介をする。

◇学習の流れ

第一次

- 単元のゴールイメージから学習の見通しを持つ。
 - ・単元のねらいを共有する。
 - ・くらしの中の和と洋についての疑問を出し合う。
- 疑問を解決できそうな本を選書する。

第二次

並行図書

- 教材文を使って学習する。
 - ・見出しをつけ、教材文を5つのまとまりに分ける。
 - ・和と洋について違いや良さを読む。
 - ・引用の仕方を知る。
 - ・教師のモデルをもとに教材文を使ってどのようにまとめているか捉える。
 - ・引用や要約を使ってまとめる。
- 「くらしの中の和と洋ブック（住編）」を完成させる。

第三次

- 「くらしの中の和と洋ブック〇〇編」を完成させる。
 - ・自分が必要だと思う並行読書の中の情報を引用したり要約したりしてまとめる。
- 自分が作った「くらしの中の和と洋ブック」を使ってALTと交流をする。

◇意識の流れ

【児童の実態】

文章の中から必要なことを書き抜いたり、要約したりする力が弱い。

- ・わたしたちが住んでいる街には和と洋がたくさんありそう。
- ・和と洋の違いが分からないな。本で調べてみたい。
- ・ALTに「くらしの中の和と洋ブック」を紹介したいな。

- ・まとまりに分けることは一学期に勉強したね。
- ・和と洋にはそれぞれに良さや違いがあるんだ。もっと違いや良さはないのかな。
- ・先生はどうやって「くらしの中の和と洋ブック」をつくったのだろう。
- ・引用の仕方が分かった。
- ・「くらしの中の和と洋ブック」が作れたぞ。自分の力でもう一回作れるのかな。

- ・知りたかった答えが本の中にあっただぞ。引用したり要約したりしてまとめるぞ。
- ・ALTに上手く伝えられるかな。
- ・家の宿題でもう一度つけた力を確かめよう。

単元で付けたい力

- ・自分の考えを効果的に表現するために、文章の必要な部分を引用したり要約したりする力。【C 読むこと エ】
- ・学校図書館などを利用し、知りたいことを調べるためにさまざまな本や資料を読む力。【C 読むこと カ】

6 指導計画及び評価計画（全11時間）

	時	学習活動	主な評価規準
第一次	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> これからの学習のめあてを知ろう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の「くらしの中の和と洋ブック」のモデルを見る。 ・単元の流れを知る。 	【関】 「くらしの中の和と洋ブック」を作ることに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。 （ノート、発言・行動観察）
	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 「くらしの中の和と洋ブック」を作れるようになるために疑問を解決できそうな本をえらぼう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の疑問が解決できそうな本を学校図書館から選書し、情報が足りない場合は市立図書館から選書する。 	【読】 学校図書館を利用し、知りいことを調べるためにさまざまな本を読んでいる。 （ノート、発言、行動観察）
第二次	3	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 「くらしの中の和と洋ブック」を作れるようになるために教材文を5つのまとまりに分けよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・見出しをつけ、本文を5つのまとまりに分ける。 	【読】 大事な言葉や接続語・文末表現などに着目し、段落と段落の関係を考えながら読んでいる。 （ノート、発言）
	4	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 「くらしの中の和と洋ブック」を作れるようになるために和と洋のちがいや良さを読もう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・和と洋について書かれている部分を見つけ、違いや良さを読む。 	【言】 段落相互の関係に注意して、指示語や接続語の役割を理解し、自分で文章を書く際に用いようとしている。 （ノート、発言）
	5 (本時)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 「くらしの中の和と洋ブック」を作れるようになるために引用したいことをあつめよう！ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・引用の仕方を知る。 	【読】 引用の仕方を理解し、並行読書に活用している。 （引用カード、ノート、行動観察）
	6	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 引用や要約をたしかなものにして、並行読書にもいかさう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・教師のモデルをもとに引用や要約を使ってどのようにまとめているのか捉える。 	【読】 引用や要約の仕方を理解し、並行読書に活用している。 （引用カード、ノート、行動観察）
	7	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 引用や要約をたしかなものにして、「くらしの中の和と洋ブック（住へん）」にまとめよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・引用や要約を使ってまとめる。 	【読】 必要な情報を引用したり要約したりして「くらしの中の和と洋ブック」にまとめている。 （くらしの中の和と洋ブック（住編））
	8	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 「くらしの中の和と洋ブック（住へん）」を完成させよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・部屋の使い方の点から違いや良さをまとめる。 	【読】 必要な情報を引用したり要約したりして「くらしの中の和と洋ブック」を完成させている。 （くらしの中の和と洋ブック（住編））
第三次	9・10	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 「くらしの中の和と洋ブック（〇〇へん）」を完成させよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の知りたい和と洋について本の情報から引用したり要約したりしてまとめる。 	【読】 必要な情報を引用したり要約したりして「くらしの中の和と洋ブック」を完成させている。 （くらしの中の和と洋ブック（〇〇編））
	11	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 「くらしの中の和と洋ブック（〇〇へん）」をALTにしようかしよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が作ったブックを使ってALTに紹介する。 	【関】 書いたものをALTに紹介し、和と洋の違いや良さを伝えようとしている。（ノート、行動観察）

7 本時の指導

第二次 3時間目 (5/11)

- (1) 目標 引用の仕方を理解し、並行読書に活用できる。
 (2) 展開

主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点 (○) 評価 (☆) 支援 (※)
<p>1 本時の課題をつかむ。</p> <p>思考したくなる課題設定</p> <p>「くらしの中の和と洋ブック」を作れるようになるために</p> <p>引用したいことをあつめよう！</p>	<p>○言語活動を確認し、ゴールイメージを共有する。</p> <p>○前時の国語日記を紹介し、意欲付けを図る。</p>
<p>2 課題を解決する。</p> <p>(1) 引用の意味を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の話や文章の中に、人の言葉や文章を借りて使うことなんだ。 <p>(2) 引用の仕方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 引用の仕方が分かったぞ。 早く引用をやってみたいな。 <p>かかわりあう授業</p> <p>(3) 教師のモデルから引用できていない部分を探す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 先生は勝手にひらがなや漢字にしている。私が引用する時も気をつけないといけないな。 ページ数も忘れないように書くように気をつけよう。 <p>3 並行読書をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> わたしの知りたいことは○ページの△行目にあった。 ページ数も忘れないように書かないといけないな。 <p>4 今日の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 引用するには「」をつけたり、文章をかえずに書き出したりすればいいことが分かった。 今日の並行読書で引用したい部分を決めることができた。 	<p>○国語辞典を活用させる。</p> <p>○教師のモデルをもとに</p> <p>①引用する部分には「」をつける。</p> <p>②引用する部分は、もとの文章の形のまま書きぬく。</p> <p>③文章全体ではなく、必要な部分だけを引用する。</p> <p>④引用した本の書名、筆署名（作者名）、出版社名、書かれていたページなどを正しく書くことを確認する。</p> <p>※引用している部分が分からない児童には本文の5つのまとまりを想起させ、「和」のことに付いてかかっているまとまりから探させる。</p> <p>☆引用の仕方を理解し、並行読書に活用している。</p> <p>【読】 (引用カード、ノート、行動観察)</p> <p>○並行読書をさせる際には引用カードに引用したいことと本の題名のみ書かせる。</p> <p>○振り返りはめあてを意識させ、書かせる。</p>
<p>5 次時の学習について知る。</p> <p>家庭学習のサイクル化</p> <p>家庭学習</p> <p>モデルと本文を比べながら音読をし、要約している部分をモデルから探していく。</p>	<p>○次時は、引用と要約をしていくことを予告する。</p>

(3) 評価規準

B 概ね満足できる状況

- ◆引用と要約の仕方を理解し、見つけながら並行読書をしている。

(例)

引用するには「 」をつけたり、文章をかえずに書き出したりすればいいことが分かった。

(行動観察をする中で並行図書から引用したい部分をメモできているか把握しておく。)

A 十分満足できる状況

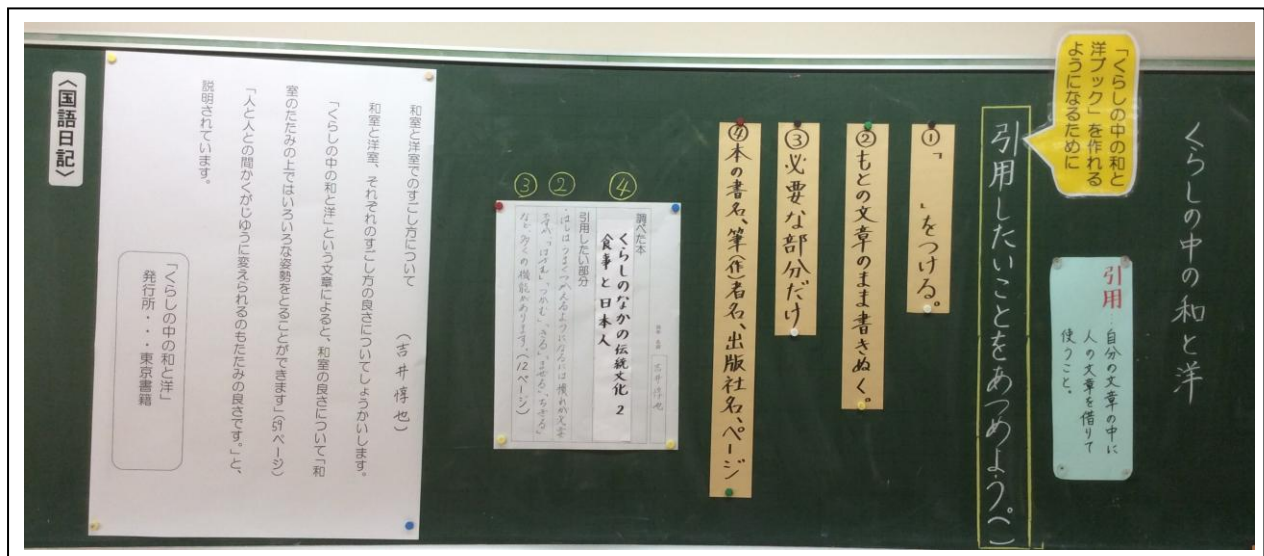
- ◆引用と要約の仕方を理解し、見つけながら並行読書で具体的に活用できている。

(例)

引用するには「 」をつけたり、文章をかえずに書き出したりすればいいことが分かった。

今日の並行読書では勉強したことを活かして引用したい部分を決めることができた。わたしが引用したい部分は○ページの△行目です。この部分を引用して和と洋の違いや良さをALTの先生に紹介したいです。

(4) 板書計画



(5) 準備物

- ・言語活動のモデル (拡大コピーしたもの)
- ・引用メモ
- ・引用するポイントを示した掲示物